

JLAC10の構造変更について

改善サブWG会議で出された案

討議対象：検体検査についてのみ

目標：JLAC10普及のために必要な改善

：データ2次利用などに利用可能なコード構造を考案する。

1. 地域連携が必要な項目に対して検査が一意に表現される17桁のセットを提供する。
2. 分析物＝分析物＋識別とし9ケタとする。
3. 分析物（分析＋識別）＋新識別で9ケタとする。

1. 地域連携が必要な項目に対して検査が一意に表現される17桁のセットを提供する(案)
共用サブWGと協力し検討する。

2. 分析物＝分析物＋識別の9ケタ(案)について

- ・分析物コード＝検査項目名とすることで、コード体系をシンプルにする。
- ・分析物＋識別 or 結果識別（固有）としすべての分析物を9ケタで表示する。
- ・識別と結果固有を有する場合は、従来の識別（4ケタ）に新たなコードを発番する
- ・識別コードと結果固有の両方を有するコードは、定量・定性コードを無視するとアレルギー関係のみの約34項目である。

メリット

1. JLAC10コードを大きく変えることなく行える。
2. 採番の際、分析物コードの選択が容易となる。
3. 識別コードに関わる重複コード生成の防止となる。
4. コード体系が、分析物、材料、測定法、結果（共通）と独立した要素となり、データの検索が容易となる。
5. 測定方法の細分化により、データ2次利用などにも有用なコードとなる。

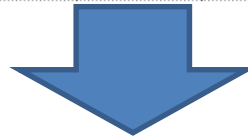
課題

1. 識別と結果固有の両方を有するコードに関しては従来の識別コードの位置にコード新設の必要がある。
2. 従来に比べて、分析物コード数が多くなる。

以下参考例

結果固有を識別に展開した例

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F135	0000	023	232	00	リポ蛋白分画
リポ蛋白分画	3F135000002323251	3F135	0000	023	232	51	aリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323252	3F135	0000	023	232	52	pre-bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323253	3F135	0000	023	232	53	bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323254	3F135	0000	023	232	54	pre b+b



結果固有を識別に移動し
分析物を9ケタで表示

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F1350000	023	232	00
リポ蛋白分画(aリポ蛋白)	3F135005102323201	3F1350051	023	232	01
リポ蛋白分画(pre-bリポ蛋白)	3F135005220323201	3F1350052	023	232	01
リポ蛋白分画(bリポ蛋白)	3F135005302323201	3F1350053	023	232	01
リポ蛋白分画(pre b+b)	3F135005402323201	3F1350054	023	232	01

識別も結果固有も使っている項目について

アレルゲン特異IgE	5A100	2804	00	5A100280400	MAST33
アレルゲン特異IgE	5A100	2804	51	5A100280451	コナヒョウヒダニ
アレルゲン特異IgE	5A100	2804	52	5A100280452	ハウスダスト1
アレルゲン特異IgE	5A100	2804	53	5A100280453	ネコ皮膚
新たな識別					
アレルゲン特異IgE MAST33	5A100	A100	00	5A100A10000	
MAST33 コナヒョウヒダニ	5A100	A151	01	5A100A15101	
MAST33 ハウスダスト1	5A100	A152	01	5A100A15201	
MAST33 ネコ皮膚	5A100	A153	01	5A100A15301	

3. 分析物（分析＋識別）＋新識別で9ケタ（案）について

- ・ 分析物と識別の役割を分ける。
- ・ 分析物コードで、院内オーダリングや保険請求など診療事務に必要な情報をカバーする。
- ・ 識別はデータ2次利用など粒度を高める要素とする。
- ・ 識別には、新たな役割を持たせる。
- ・ 桁数は、分析物＋識別で9ケタを維持する。

具体案

1. 分析物コードを現5ケタあるいは、6ケタで分析物+識別の情報量を確保する。
 - ・ 識別コードは、新たに2次利用などに利用可能な粒度をもつ要素とする。
 - ・ オーダコードは、新識別コードは***などを使用し細分化しない。

メリット

- ・ 現状の体系を維持できる。(識別コードが残る)
- ・ 識別コードを有するコードのみの再編で実現可能
- ・ 現状のJLAC10に新要素を加えることで、従来の用途だけでなくデータ二次利用などに有用な粒度の高い情報を持ち得る。

課題

1. 識別コードを有する検査項目の分析物コードを発番する必要がある。
 - 1) 分析物5ケタ
 - ・ 識別コードを有する分析物をすべて発番し直す。
 - 2) 分析物6ケタ(分析5+識別1)
 - ・ 1ケタで識別コードを分類する。(たぶん厳しい)
(1分析物1項目に対応する最多識別は5A100に約340項目ある。)
 - ・ 識別コード2ケタなら可能かもしれない
2. 新識別の要素をどうするか?
データ二次利用に有効な検査法コードの検討が必要となる。

以下参考例

分析物7ケタ 識別2ケタの例

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F135	0000	023	232	00	リポ蛋白分画
リポ蛋白分画	3F135000002323251	3F135	0000	023	232	51	aリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323252	3F135	0000	023	232	52	pre-bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323253	3F135	0000	023	232	53	bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323254	3F135	0000	023	232	54	pre b+b

結果固有を分析物に移動し7ケタとする
識別コードは2ケタで存続させる

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F13500	00	023	232	00
リポ蛋白分画(aリポ蛋白)	3F135510002323201	3F13551	00	023	232	01
リポ蛋白分画(pre-bリポ蛋白)	3F135520002323201	3F13552	00	023	232	01
リポ蛋白分画(bリポ蛋白)	3F135530002323201	3F13553	00	023	232	01
リポ蛋白分画(pre b+b)	3F135540002323201	3F13554	00	023	232	01